

## 目の前にいる子どものニーズを 考える

児童養護施設北光社ふくじゅ園 施設心理士

**小宮和樹** (こみや かずき)

私が児童養護領域に従事し、1年が経ちました。私がこの領域に携わることになったのは、大学院時代にお世話になっていた北翔大学飯田昭人准教授のご紹介でした。飯田先生からは、日頃から自分をしっかりと見つめ直しながら、行動と思索を行い、目の前の人に対して真摯に向き合う姿勢が大切であることを学びました。自分もそんな援助者でありたいという思いもあり、今でも飯田先生のもとで勉強させていただきながら、この仕事を続けています。

### ふくじゅ園での心理支援

私が働いている児童養護施設北光社ふくじゅ園は、大舎制の施設で約50人の児童と約30名の支援者が生活しています。私は心理士として勤務しています。心理士は、心理療法を行うのみとイメージしがちですが、児童指導員の方と同じく子どもの日常生活に関わり、一緒に食事や入浴するなどの生活支援も行っています。

入所している子どもの生活を見ていると、他児とトラブルが多いことや非行の問題、また大人をわざと怒らせるような行動などが多いように思います。これに対して、職員は指導するのですが、なかなか子どもたちが指導に向き合うことができないことがあります。

そんな時に職員は、「この子はこういった背景があり、なぜこのような行動をとるのか」というこ

とを考えていく必要があります。子どもの行動を理解していくために心理学の知見を援用していくことが有用であるように思います。子どもと関わるうえで、認定心理士の資格を取得する際に、大学で学んだ知識が役に立つのではないかと思われます。

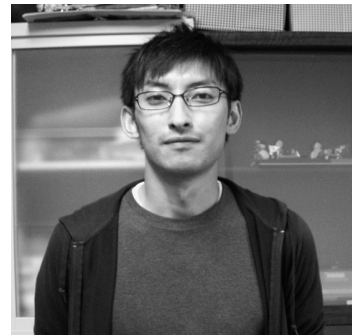
### 理論と実践のはざま

しかし最近目の前の子どものたちの話を聞いていると、心理学の教科書などに記載されている症状や特徴で単純に説明できないのではないかと考えています。症状が出ている背景は、それぞれ個人で異なり、その人独自の生きづらさ、つらさがあります。職員が子どものつらさを一つの理論や考え方で理解したかのように感じるといった危険性を考えるようになりました。心理学はあくまで目の前の人を理解するための一つの指標であり、絶対に正しいといったものではないということです。それは学生時代には言葉上理解していたつもりでしたが、現場で働く中で、改めて体感したことでした。当たり前のことですが、忘れてはならないことだと思いました。

働く中で、目の前でわからないことがあるとすぐ心理学の理論にすがりたくなることがあります。確かに大事な指標ではあるのですが、早急に出した答えが子どもの本当のニーズを捉えていないのではないかと思うことが多くあります。さまざまな理論を念願におき

### Profile—小宮和樹

大学を卒業後、3年間の陸上自衛隊入隊を経て、2014年、北翔大学大学院人間福祉学研究科臨床心理学専攻修了。同年より児童養護施設北光社ふくじゅ園入社。専門は臨床心理学。



### カウンセリングルームにて

つつも、「目の前の子どもが、何を求めているか」「何を伝えたいのかをじっくり考えること」「それに対して大人側がどんな姿勢でいることが子どもの利益につながるか」を考えることが大切であることに、最近改めて仕事をしていて気づかされました。

現代社会では、すぐに成果を出さなければならないという風潮ですが、人の心は、「こうすればこうなる」とすぐに成果が出るような単純なものではないように思われます。そんな中で子どもを支援していくために、臨床心理の知見が広まることが、子どもの一つの支えとなり、子どもの利益につながっていくように思います。